

（２）基本理念２：新たなエネルギーシステム実現に向けた三原則

原則１：分散型のエネルギーシステムの実現を目指す。

新たな技術体系に基づく革新的なエネルギーシステムを目指す。現在の集権型エネルギーシステム（地域独占の電力会社による大規模電源が電力供給の太宗を担うシステム）の改良ではなく、分散型の新たなエネルギーシステムを目指す。

分散型エネルギーシステムへの転換が、エネルギー・環境技術への民間投資を喚起し、新しいビジネスモデルを構築する。経済成長の源となる。エネルギーシステムの分散型への転換を、日本の経済社会構造そのものを地域分散型に変革する基盤とし、我が国国土・環境の保全や地域社会の維持・発展につなげる。

原則２：課題解決先進国としての国際的な貢献を目指す

技術と政策に裏打ちされた解決手法を実現し、課題解決先進国として世界に貢献する。

内外の知見を我が国に結集し、世界に先んじて新たなエネルギーシステムの構築を実現する。¹

原則３：分散型エネルギーシステムの実現に向け、複眼的アプローチで臨む。

当面のエネルギー需給安定対策を具体化すると同時に、未来を志向した新たなエネルギーシステム実現の中長期の戦略を構築する。

当面の対策と中長期の戦略は相互補完的なものとする。すなわち、当面の対策は、中長期的な方向性を視野に入れ、エネルギー構造の変革を先行実施する内容とすると同時に、中長期的に効果を発揮する施策であっても、早期に着手し具体化する。

¹ 参考資料⑥：世界各国の分散型電源システムの確立に向けた動きを参照。（p. 32）